ピンク色の範囲と連想 Color Ranges and Associations of Pink

宮田久美子 Kumiko Miyata

常磐短期大学

Tokiwa Junior College

Keywords: ピンク,三属性による色の表示,連想語

1. はじめに

ピンクという色名は一般によく用いられているが、それではどのような色を「ピンク」色といっているか、漠然とピンク色の範囲の見当はつくであろうが、「これがピンク色」「これらもピンク色」の個々人による差異の有無を追究する。先行文献」には、"ニュアンスの異なるピンク 12 色"を提示し、その中から"恋するピンク""勝負ピンク"を選択させた調査(10RP, 7.5RP の各3色,5RPの4色,2.5RP,10Pの各1色,"":文献中の使用語)がある。本研究では、調査者が多数の色票から自由に「これがピンク色」、「これらもピンク色」を選択し、その結果からピンク色を解明する。また、色名「ピンク」からの連想語の結果も示す。

2. 方法

色票「BASIC COLOR 140」(140 色:有彩色 130 色,無彩色 10 色,各 B6 判)の 140 色を調査者が各自持ち、①「これがピンク色」1 色、②「これらもピンク色」(① 以外で)全てを自由に選ぶ調査を行う.また、①と②に先行して色票を見ずに、色名「ピンク」から連想される具象語と抽象語を各一つ自由記載させる.調査者は、美術系大学女子 200 名、同男子 56 名、教養系短大女子 76 名、合計 332 名の 20代前半までの日本人で、以下各々A、B、C 群と称す.

3. 結果および考察

① これがピンク色

3 群別に集計した結果,最もピンク色の色数は,A:9,B:7,C:7 となり各群間には強い相関があった.3 群の平均値を図 1,表 1 に示す.表 1 より 1 位は 5RP6/10(明るい赤紫);65.0%, 2 位は 5RP8/6 (うすい赤紫);22.2%,これらの合計は 87.2%で,色相赤紫 RP の中明度・高彩度,高明度・中彩度の色であった.また,3位以下は 3%未満で,色相は, RP(4色の合計 7.7%),赤 R(3色の合計 5.1%) となり,紫 P,黄赤 YR は全くなく, RP が殆どを占めた.

② これらもピンク色

「これらもピンク色」を 140 色から全て選出させた結果、3 群とも一人当り約 6 色をあげた。3 群の出現率の平均値が 5%以上の 16 色の選択率の各群間には相関があった。

表 1 には、3 群平均値(5%以上)、16 位までの色を示す。表 1 より色相をみると、RP が 1,2,3 位、そして 6,8,9,11,15 位も占める。次に R が 4,5,7,10 位、P が 12,13,16 位に上がり、YR は 14 位に入る。

①と②は重複選択されず、①1 位の 5RP6/10 は ②では9位、①2 位の 5RP8/6 は②では3位、①と ②の合計選択率は、夫々93.7%、88.7%となり、こ れら2 色を殆どの人がピンク色とみなしていた。

また,①に登場した 9 色は,順位は異なるが②の上位 9 色と全く同色である.上位 9 色(選択率20%以上)の色相 RP,R の明度と彩度との関係を図2-1 RP,図2-2 Rに示す. RPは,高明度・低彩度(vp トーン),中明度・中彩度(sf),高明度・中彩度(pl),中明度・高彩度(lt,vv)の6色,Rはlt,vp,pl トーンの3色であった.

③ 色名「ピンク」からの連想(具象語,抽象語) 具象語は群間に強い相関があった.出現率の平 均値 2%以上の具象語を図 3-1 に示す. 桃は果物 を指すが,桃(37.4%)が圧倒的に多く,桜,豚と続 く.文献²⁾(2005年調査)でも桃(39%)が1位である.

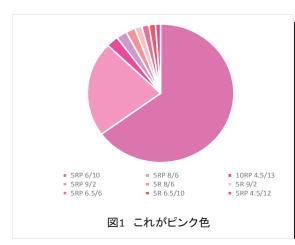
抽象語の群間の相関は, $\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}$:相関あり, $\mathbf{A} \cdot \mathbf{C}$:弱い相関, $\mathbf{B} \cdot \mathbf{C}$:殆ど相関なしであった.抽象語(図 3-2)は全て 25%以下,各群の差も大きい.可愛い,恋,恋愛という上位は,文献 2 とも同じであった.

調査者に偏りはあるものの、本研究から、「これがピンク色」、「これらもピンク色」は3 群間の差は殆ど無い事が分かり、5RP6/10 が ピンク色であり、5RP の 9/2、6.5/6、8/6、5R の 6.5/10、9/2 が、これらもピンク色であると明示できた.

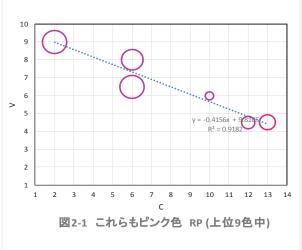
参考文献

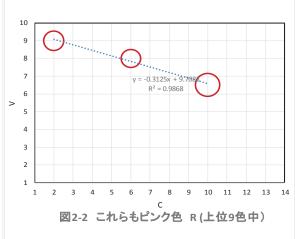
- 1) JAFCA 「恋するピンク」と「勝負ピンク」 vol.1(2009), vol.2(2011)
- 2) 宮田久美子(2014)「暮らしの中の色彩学入門」 新曜社, p.49

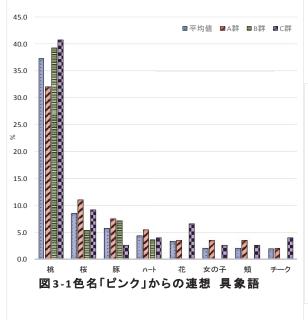
表1. ピンク色

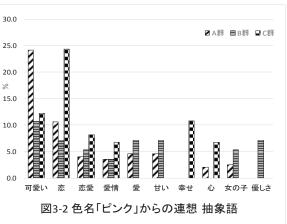


① これがピンク色			② これらもピンク色	
HV/C	%	順位	HV/C	%
5RP 6/10	65.0	1	5RP 9/2	74.4
5RP 8/6	22.2	2	5RP 6.5/6	74.0
10RP 4.5/13	2.7	3	5RP 8/6	66.5
5RP 9/2	2.3	4	5R 6.5/10	60.9
5R 8/6	2.1	5	5R 9/2	51.5
5R 9/2	1.6	6	10RP 4.5/13	49.4
5RP 6.5/6	1.6	7	5R 8/6	49.3
5R 6.5/10	1.5	8	5RP 4.5/12	43.1
5RP 4.5/12	1.1	9	5RP 6/10	28.7
		10	5R 6.5/6	19.6
		11	5RP 7.5/2	16.3
		12	5P 9/2	16.0
		13	10P 4.5/11	12.9
		14	5YR 9/2	9.0
		15	5RP 4.5/6	8.7
		16	5P 8/5	8.6









Supplement 10